



講習会だより

Extra number(4) . 2013/01/13

- 今年の冬はインド洋東部の異常気象に起因した、偏西風の大蛇行の影響によって寒い日が続きます。
- 小寒から立春の頃までが一年で最も寒い頃で、庭木の手入れでも「厳寒期を避ける」と云われる時期です。
- この時期に枝などを切ると、形成層などの組織が十分な働きをせず、樹皮の復元が出来ずに枯れてしまうことや切り口に近い芽が乾燥して生育が悪くなったりする場合がありますので、身近なものとしてはバラなども昨年の内に剪定しなかったものは、2月に入ってから剪定した方が無難です。
- また、この時期は鉢植えの水遣りが疎かになりがちですが、気温が零度付近で湿度が20%程度になる時もあり、加えて北よりの風が吹くと一層乾燥が進み過酷な環境になってしまいますので、風の当たらない場所を選び、霜よけなどをして、3日に一度程度日差しのある昼のうちに水遣りすることが必要です。
(ミカン類・シマトネリコ・ナンテン・ルリヤナギ・アジサイなどの鉢物も水枯れに注意してください。)



○水分不足で枯れてしまった鉢物

この写真は秋まで異常なく、たわわに実を付けていた縁起物の大粒白実万両です。

寒くなり突然元気がなくなったとのことで、根を調べましたところ、ひげ根がすっかり枯れていました。原因は水遣りを怠ったためです。

対処方法としては、この時期比較的安価で購入出来る、ビオラ・パンジー・イベリスなど寒さに強い草花を株元に植え、乾燥状態の様子を確かめるのも簡単に出来る一つの方法です。

○多肉植物の冬越し

アロエやサボテンなど多肉植物は、大気中の水分を吸収し生育しているため給水の必要はありませんが、水分が多く霜に弱いため、夜間はビニールを掛けるなどして養生をします。写真の蕾はまもなく開花しますが、放置すると開花しないまま葉肉とともに霜枯れしてしまいますので早目の対応が必要です。

